

## 連合軍提出書類に見える「越ヶ谷飛行場」

NPO 法人越谷市郷土研究会 秦野 秀明

### 一・先行研究

- ①出典：山本 茂男編（1973）『B 29 対陸軍戦闘隊』今日の話題社 p. 121, 124  
「第一〇飛行師団編合 第一四一飛行場大隊（越ヶ谷）」、「越谷飛行場」
- ②出典：竹内 誠（1977）『越谷市史 第二巻 通史下』越谷市役所、P707～708  
「荻島村と新和村にまたがる荻島飛行場の建設工事は、暗号名を「ソヒノコ」工事と称され、東部軍経理部陸軍建技大尉が工場長でこれにあたったが」
- ③出典：岩槻市史編さん室編（1985）『岩槻市史 通史編』岩槻市役所、P. 1115-1117  
「市域でも新和村と荻島村にまたがる新和飛行場の建設が昭和十九年七月始まった」
- ④出典：加藤 幸一（2015）「戦争遺跡・幻の越谷陸軍飛行場」  
[https://koshigayahistory.org/150810\\_hotk\\_oh\\_kk.pdf](https://koshigayahistory.org/150810_hotk_oh_kk.pdf)  
「越谷の荻島村から岩槻の新和村にまたがる飛行場であった。  
地元では通称「荻島飛行場」「新和飛行場」とか、  
新和村の論田地区にあったので「ロンドン飛行場」とも呼ばれた」
- ⑤出典：加藤 幸一（2024）「戦争遺跡・幻の荻島飛行場（令和 6 年 1 月改訂増補）」  
[https://koshigayahistory.org/240117\\_ogishima\\_h\\_k\\_k.pdf](https://koshigayahistory.org/240117_ogishima_h_k_k.pdf)  
「越谷の荻島村から岩槻の新和村にまたがる広大な飛行場であった。  
地元では通称「荻島飛行場」「新和飛行場」とか、新和村論田地区にあったので「ロンドン飛行場」とも呼ばれた。  
正式名は陸軍の「東部軍越谷飛行場」である」

↓ 「史料」(注 1) 0197 を部分引用

第140	Yoshiwata 八 街			0
第141	Koshigaya 越ヶ谷		262	0
第244	Chōpe 朝 野	3/9	272	0

↓ 「史料」(注 1) 0192 を部分引用

第26	Yoshida 20 野戦飛行場設定隊		702	0
第27	Sakato 坂 野	1/9		0
第28	Koshigaya 越ヶ谷	1/9		0

### 二・飛行場の「正式名称」は、「陸軍越ヶ谷飛行場」と推測できる

令和 7 年 9 月 22 日（月）、秦野 秀明は、山本 茂男編（1973）で記載されていた名称の「出典」と推測される「史料」（注 1）を確認した。  
以下がその「史料」に記載されるデータである。

- ①部隊名：第 141 飛行場大隊・位置：越ヶ谷・復員期日：3/9・復員人員：262・残置人員：0
- ②部隊名：第 26 野戦飛行場設定隊・位置：越ヶ谷・復員期日：3/9・復員人員：702・残置人員：0

以上のように「日本陸軍省 内地陸軍航空部隊」の「飛行場」に関する「部隊名」の「位置」として「越ヶ谷」として記載されている。  
故に、飛行場の「正式名称」は「陸軍越谷飛行場」ではなく、「ヶ」の付いた「陸軍越ヶ谷飛行場」と推測できる。  
そもそも、「ヶ」の付かない「越谷」という自治体名は、昭和 29 年（1954）年 11 月 3 日以前には存在しない故に当然と考えられる。

（注 1）出典：「23. 昭和 20 年 10 月 29 日 日本陸軍省 内地陸軍航空部隊復員状況一覧表」JACAR（アジア歴史資料センター）  
Ref. C15011156000、「昭和 20 年 9 月以降 連合軍提出書類「復員に関する綴」（其の 1）軍事課調査班」（防衛省防衛研究所）